北海道新聞

足寄町

来月中旬に塾開講

町議会 設置条例案を可決

【足寄】臨時町議会が3日開かれ、足寄高生を対象にした町の公設民営塾「足寄町学習塾」の設置条例案を原案通り可決した。町は9月中旬の講義開始に向け、準備を進める。

塾は足寄高の生徒確保などを目的に、足寄高生が無料で利用できる施設として町が整備する。同高卒業生が社長を務め、個別指導学習塾を全国展開する「Birth47」（東京）を指定管理者に選定した。期間は2018年3月末まで。

開設予定の建物改装費など塾運営委託料3500万円などを盛り込んだ本年度の一般会計補正予算案も可決した。町と同社は具体的な講義体制などを調整し、町内の中学校への説明会も開く予定。オープンキャンパスなども実施して受講生を募る。

安久津勝彦町長は行政報告で雌阿寒岳の噴火警戒レベル2への引き上げに関連し、地元住民向けの説明会を開く意向を示した。（牧之段英樹）

7月の帯広 夏日が22日

真夏日も9日

帯広測候所が3日発表した7月の気象概況（速報値）によると、帯広は最高気温が25度以上の夏日が22日あり、うち9日は最高気温30度以上の真夏日を観測。7月としては夏日、真夏日とも平成に入って最多となった。一方、降水量は少なく、帯広は59ミリと平年の半分ほどしかなかった。

全道的に高気圧に覆われた12日には、十勝管内はフ

足寄高生徒対象 町が塾

学力向上支援を魅力に

志望者確保「2学級維持を」

【足寄】町は16日、足寄高の生徒を対象にした公設民営の学習塾を9月にも開設する方針を明らかにした。町は今月から同高生徒に無料で給食提供を始めるなど、生徒確保に向けた取り組みを強化。これに加え学力の向上を支援することで魅力を高め、町外に流出する生徒を食い止めたい考えだ。（牧之段英樹）

町が開設を予定している塾が設置される旧建設会社事務所

「町内の人口減を踏まえると、このままでは足寄高校の1学年2学級の維持が困難になる」。同日開かれた町議会の行政執行方針で安久津勝彦町長は危機感をあらわにし、公設民営塾の設置に理解を求めた。

町内の中学卒業者数は2023年まで50人台から60人台で推移する見込み。同高の1学年2学級維持には41人以上の新入生が必要で、陸別などからの入学も見込まれるものの、町内の多くの中学生が入学することが求められる。

一方で、大学進学などを考慮して町内から帯広などの高校に進学するケースも少なくない。今春の卒業生は全体の4分の1が町外の高校を選択。昨春の卒業生は半数以上が町外の高校に進んだため同高の新入生が1学級に減少するなど、町外流出に歯止めをかけることが課題となっている。

町は所有する旧建設会社事務所（町南6の1）を塾に改装し、道内外で学習塾やスポーツスクールを経営するBirth47（東京、高橋宏幸社長）に運営を委託する方針。高橋社長は足寄出身で同高の卒業生で「地域貢献を果たしたい」と話す。講師は少なくとも2人は常駐させる方針だ。

受講は希望者のみで、受講料は無料。対象科目は国語、数学、英語などの受験に必要な各科目を予定している。放課後などに生徒各自の進路などに応じた教材を使いながら個別指導を行い学力向上を図る。平日のほか、夏休みなども開講する計画だ。安久津町長は「都市部の学校に劣らない魅力的な高校になれば、町外からの転入者も期待できる」と話している。

保証金を求める特殊詐欺に注意

銀行員が防ぐ

帯広市内の60代男性経営者が16日、東京都内の金融業を名乗る複数の男から融資の保証金名目で現金81万円をだまし取られそうになったと、みずほ銀行帯広支店の職員が帯広署に通報した。同署は特殊詐欺事件とみて調べるとともに、類似の手口に注意するよう呼び掛けている。

同署によると、男性の経営する会社に3日、年利1・02%で資金を特別融資する申込書がファクスで送付された。男性がファクスで融資を申し込むと「審査のため必要事項を送って」と電話があり、審査通過後に

足寄高生対象の公設学習塾

来月開講へ 生徒説明会

塾関係者（左）から説明を受ける入塾希望者（右）

【足寄】足寄高生を対象に10月1日に開設される公設民営塾「足寄町学習塾」を知ってもらおうと、カリキュラムや施設を紹介する「オープンキャンパス」が同塾（町南6の1）で開かれている。入塾希望者らが訪れ、説明を聞いている。

講義カリキュラムの説明のほか、映像教材を視聴できるブースや個別指導を受ける部屋などの見学が行われている。22日に母親と説明を受けた2年の男子生徒(17)は「大学進学を希望しているので塾に関心があった。自分に合った勉強ができそう」と話していた。既に20日から始まり、30日までの期間中、21件の説明希望があるという。

同塾は足寄高の入学生確保などを目的に町が設置するもので、道内外で学習塾を経営するBirth47（東京）が指定管理者として運営に当たる。授業料は無料。（牧之段英樹）

進学者増やし学校魅力アップ

足寄高頑張れ 町が塾

【足寄】十勝管内足寄町は、道立足寄高校の生徒を対象にした公設民営の学習塾を今年9月にも設置する方針を決めた。進学を目指す生徒たちを支援することで、入学者の確保を図る方針。16日の町議会で安久津勝彦町長が明らかにした。道立高校の生徒向けに自治体が塾を開設する例について道教委は具体的な調査はしていないが、「聞いたことがない」としている。

町がすでに取得している町内の旧建設会社事務所を改装して設置。運営委託を予定しているのは道内外で学習塾やスポーツスクールなどを経営するBirth47（東京）。札幌などでは学習塾「慶学館」「ITS進学センター」などを運営している。同社の社長は同町出身で足寄高の卒業生。

学習塾は希望する生徒が放課後に利用する。受講料は無料。講義内容や講師の体制は今後詰めるが、国語、数学、英語など受験に必要な各科目が対象。平日のほか、夏休みや冬休みなどにも開設し、生徒各自の進路希望やレベルに合わせた教材を使い個別指導で学力アップを目指す。

予算額などは今後精査する。町は国の地方創生関連の上乗せ交付金を申請する予定で、インターネットを通じて寄付を募る計画もある。安久津町長は「高校の維持には特効薬が必要。都市部の高校に劣らない魅力と特色ある高校にしたい」と話している。

同高は1949年に本別高校西足寄分校として開校。80年代には全校生徒が600人を超えた時期があったが、現在では100人余りまで減少している。町内の中学校を卒業後、帯広市内など町外の高校に進学するケースも少なくなく、今春の卒業生は4分の1が町外に進学した。

市町村による高校生向けの塾設置は、道外では島根県海士町が地元の隠岐島前高校の生徒を対象にした塾を2010年から開設し、有名大学への合格者が増え、東京や大阪を中心に全国から生徒が集まっている例がある。

9月にも 無料で個別指導

足寄高生への塾 来月1日開設へ

足寄中で足寄町学習塾について説明するBirth47の高橋宏幸社長

【足寄】町が足寄高校生を対象に設置する公設民営塾「足寄町学習塾」の運営を行うBirth47（東京）の高橋宏幸社長らによる説明会が4日、道の駅「あしょろ銀河ホール21」と足寄中で開かれた。高橋社長は10月1日に開設予定であることを明らかにし、同日から11月末まで中3生を対象に教室開放も行う計画を表明した。

同社は個別指導塾を全国展開しており、高橋社長は足寄出身で同高の卒業生。塾には講師3人が常駐する予定で、同社が提携した大学受験生向けの映像教材を手がけるベリタス・アカデミー（京都）からネット配信を受けながら疑問点などを講師が個別指導する。

高橋社長は「親子が共有できる時間は貴重。（地元高校に進学することで）18歳まで親元で生活できるメリットは大きい」と述べた。また、ベリタス社の坂木俊信社長は「正しい方法で学習することが大切。間違った原因を考えながら集中的に問題を解くことで苦手分野も克服できる」と話した。（牧之段英樹）

公設民営塾オープン

足寄高 魅力アップへ

町長「進学環境整った」

【足寄】足寄高校の生徒向けに町が設置した公設民営塾「足寄町学習塾」が1日、スタートした。同高存続の切り札として入学者確保のため、町が打ち出した一大事業。生徒たちのレベルに合わせた指導を受講料無料で実現することで、同高の魅力アップを図る。（牧之段英樹）

「しっかり勉強すれば親元から高校に通っても進学できる環境が整った」。開校式で安久津勝彦町長は力を込めた。塾には1日現在で1～3年まで計21人が集まる。3年生の女子生徒(17)は「目前に迫った専門学校の入試に備えたい」と期待を込める。別の男子生徒(17)は「施設や講師陣はとても充実している。あとは自分がやるだけ」と話す。

塾は町内市街地にあり、映像教材で勉強するブースが設けられているほか、講師による個別指導室、自習スペース、談話室などもある。

講義は夏休み、冬休み期間なども含め水曜日を除く毎日行われ、部活動を行っている生徒にも配慮して平日は午後10時まで開く。

受験に必要な各科目に対応し、インターネットで配信される映像教材を視聴して学習するほか、その中で疑問点があれば個別指導を行う。さらに個別指導は、中学の学習内容もカバーし幅広いレベルの生徒に対応する方針だ。

運営の高橋社長に聞く

高橋宏幸社長

学習塾の指定管理者として町から運営を委託されたBirth47（東京）の社長で、足寄高卒業生の高橋宏幸さん(42)に塾の特色や目標について聞いた。

――塾の運営を引き受けた経緯は。

「町から足寄高存続の知恵はないかと相談されました。小、中学生の学習指導を中心に行ってきたが、インターネット配信の教材を活用すれば大学受験への対応も可能と考えました」

――塾の特徴は。

「高校の授業が学習の基本ですが、足寄高のようにさまざまな学力レベルの生徒が集まる高校では、全員に合った授業を行うのが難しい。質の高いネット教材と基礎的な学習に対応できる個別指導で、生徒のレベルに合わせて支援したい」

成果挙げる自信ある

――当面の目標は。

「これまでの経験から、真剣に学習に取り組めば成果を挙げる自信があります。高い目標を持ち続ければ3年後に北大、5年後に東大の合格者を出すことも可能と考えます」

――地域活性化への期待もあります。

「地域からの手厚い支援を受けて学力を伸ばした生徒には強い愛郷心が生まれるはず。生徒が社会で活躍するようになれば、何らかの形で町に還元されるのでは。足寄に限らず人口減が進む自治体に、私たちの知識や経験を活用して貢献したいと思っています」

1日オープンした足寄町学習塾で映像教材を使って学習する生徒

足寄高生向け無料塾開校

町、入学者確保を期待

開校した足寄町学習塾で学ぶ足寄高の生徒

【足寄】十勝管内足寄町が道立足寄高の生徒を対象に設置した公設民営塾「足寄町学習塾」が1日、開校した。町によると、道立高の生徒向けに市町村が学習塾を設置するのは道内初という。

進学を目指す生徒らを支援することで、入学者の確保を図る。開校式には関係者約30人が出席。安久津勝彦町長は「塾設置は足寄高を存続させる最後の手段と考えている」とあいさつした。

塾の建物は、町が所有する旧建設会社事務所を使っている。道内外で学習塾を経営するBirth47（東京）が町から委託を受けて運営。同社の社長は、同町出身で足寄高の卒業生だ。

塾には1日現在、同高の1年～3年生110人のうち、計21人が在籍。受講料は無料。国語、数学、英語など受験に必要な教科に対応する。インターネットで配信される映像教材と、講師による個別指導を組み合わせて学力向上を図る。

絵本の里大賞に東京の真珠さん

7年ぶり4回目

【剣淵】優れた絵本を読者の投票で選ぶ上川管内剣淵町の「第25回けんぶち絵本の里大賞」（実行委主催）

穴開け不要

スプレー缶 札幌の

札幌市は1日、ガス抜き用の穴が開けられていない状態の使用済みスプレー缶やカセットボンベなどのごみ回収を、清田区の一部で試験的に始めた。スプレー缶の穴開けが原因とみられる死亡火災が昨年から、市内で相次いだため。市は問題がなければ、「穴開け不要」の回収を順次広げる。

市は現在、4週に1回の「燃やせないごみの日」に穴開け状態のスプレー缶な